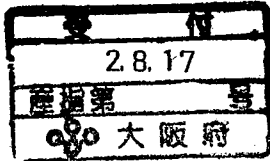


(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2020年8月15日

大阪府知事 殿



提出者

住 所 大阪府大阪市中央区本町4-4-25

氏 名 三井ホーム株式会社大阪支店
支店長 清 一雄

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6243-5231

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三井ホーム株式会社大阪支店
事業場の所在地	大阪府大阪市中央区本町4-4-25
計画期間	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業 06 総合工事業
②事業の規模	2019年度 元請完成工事高 88億7025万円
③従業員数	約95名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス 陶磁器 エンクリートくず → 破碎 → 再生利用 ・廃プラスチック → 破碎 → 再生利用 ・金属くず → 破碎 選別 破碎 → 再生利用 ・繊維くず → 圧縮 破碎 梱包 → 再生利用 ・木くず → 破碎 → 再生利用 ・紙くず → 圧縮 梱包 → 再生利用

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2019年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	アスファルト・コンクリート塊	ガラス・陶磁器
	排出量	29 t	113 t
	(これまでに実施した取組) 1) OSプレカット推進の対象エリアを更に拡大する事により木材投入量を削減し、結果として現場排出量を抑制した。 2) 屋根材・軒天合板・断熱材プレカット推進の対象エリアを更に拡大する事により投入量を削減し、結果として現場排出量を抑制した。 3) 現場投入量の削減策を検討し、試行した。 4) 部資材ロット単位や拾い基準の見直しにより排出量の削減を推進した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルト・コンクリート塊	ガラス・陶磁器
	排出量	28 t	112 t
	(今後実施する予定の取組) 1) OSプレカットを継続して実施する事により木材投入量を削減し、結果として現場排出量を抑制する。 2) 部資材ロット単位や拾い基準の見直しによる排出量の削減を推進する。 3) 部資材プレカット・省梱包化・養生材の再利用の検討をし、実施する事で現場排出量を抑制する。 4) 現場分別の徹底策を実施し、現場排出量の体積を減量化する事で現場排出量を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 1) 新築系産業廃棄物は、原則以下の品目ごとに分別し排出するよう、関係各位へ指導・徹底を行った。 <袋詰め排出>①廃石膏ボード②廃プラスチック類③木くず④紙くず⑤金属くず⑥その他(ガラス陶磁器くず、コンクリートガラ他) <束ねて排出>⑦長尺材(ランバー等はカットのうえ束ねる)⑧段ボール 2) 解体系産業廃棄物は、建設リサイクル法の定める手順の遵守、分別排出の推進を指導した。また、特定品目(木くず、コンクリート)の再資源化施設へ処理委託を推進した。		
	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 1) 新築系産業廃棄物は、原則以下の品目ごとに分別し排出する。 <袋詰め排出>①廃石膏ボード②廃プラスチック類③木くず④紙くず⑤金属くず⑥その他(ガラス陶磁器くず、コンクリートガラ他) <束ねて排出>⑦長尺材(ランバー等はカットのうえ束ねる)⑧段ボール 2) 解体系産業廃棄物は建設リサイクル法の定める手順を遵守し、分別解体を行う。また、特定品目(木くず、コンクリート)の再資源化への処理委託を行う。	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

がれき類 (石綿含有)	コンクリート	その他がれき	金属くず
6 t	909 t	33 t	39 t

②計画

がれき類 (石綿含有)	コンクリート	その他がれき	金属くず
5 t	908 t	32 t	38 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

建設混合廃棄物 (安定型)	建設混合廃棄物 (管理型)	紙くず	石膏ボード
4 t	103 t	58 t	50 t

②計画

建設混合廃棄物 (安定型)	建設混合廃棄物 (管理型)	紙くず	石膏ボード
3 t	102 t	57 t	49 t

廃プラ	木くず
106 t	324 t

廃プラ	木くず
105 t	323 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	

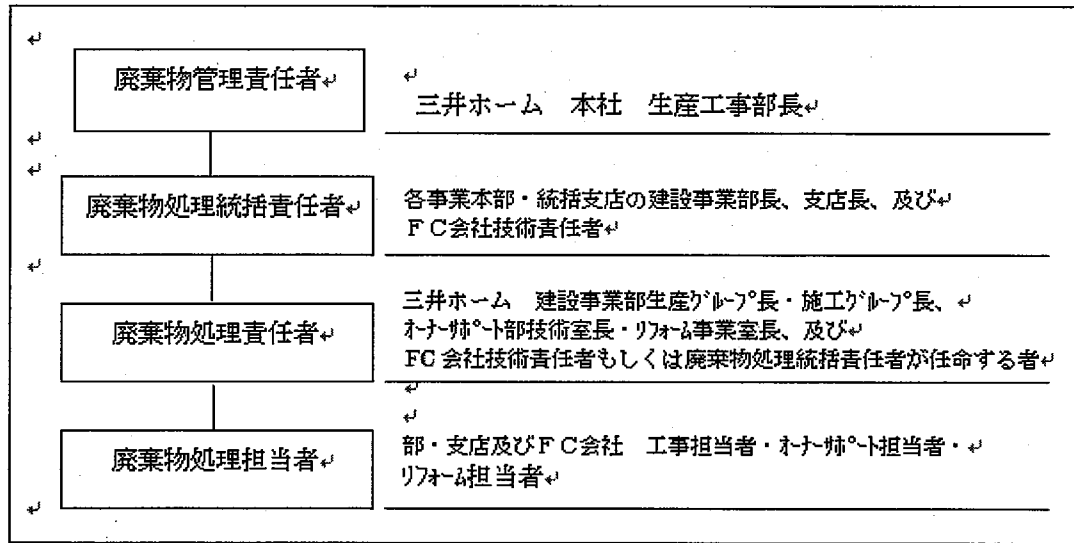
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（2019年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	アスファルト・コンクリート塊 ガラス・陶磁器
	全処理委託量	29 t 113 t
	優良認定処理業者への処理委託量	3 t 36 t
	再生利用業者への処理委託量	7 t 0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	1 t 0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	0 t 0 t
	(これまでに実施した取組) 1) 産業廃棄物の処理は、委託契約を締結した収集運搬業者と処理処分業者のみに委託することを徹底している。 2) 廃棄物の発生から最終処分が終了するまでの処理の工程を把握するため廃棄物処理体制表を作成。処理ルートの変更があった場合は委託契約の変更等、必要な手続きを速やかに行った。 3) 廃棄物管理票（マニフェスト）により、最終処分までの工程の確認を行った。 4) 新築系においては可能な限り袋詰め分別を行い、解体系においては現場での分別排出（解体）及び再資源化施設での処理委託を推進した。 5) 委託契約先処理施設の現地確認を行い、委託に適する業者か否か確認した。	

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	アスファルト・コンクリート塊	ガラス・陶磁器
	全処理委託量	28 t	112 t
	優良認定処理業者への処理委託量	3 t	36 t
	再生利用業者への処理委託量	7 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	1 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>1) 産業廃棄物の収集運搬、処理処分を委託する場合には、事前に収集運搬業者と処理処分業者のそれぞれ個別に書面により委託基本契約を締結する。</p> <p>2) 処理の工程の確認は、廃棄物管理票（マニフェスト）により行う。</p> <p>3) 新築系においては可能な限り袋詰め分別排出を行い、解体系においては現場での分別排出（解体）及び再資源化施設での処理委託を推進する。</p> <p>4) 委託契約先処理施設の現地確認を行う。</p> <p>中間処理場・リサイクル施設および積替え保管場所一年1回 最終処分場—3年に1回</p>			
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



廃棄物管理責任者	
職位	三井ホーム本社 生産工事部長
権限	産業廃棄物に関する業務の責任者として、三井ホーム部・支店及びFC会社の業務遂行を指揮・管理する。

廃棄物処理統括責任者	
職位	三井ホーム各事業本部の建設事業部長、支店長、及びFC会社技術責任者
権限	廃棄物処理に関する三井ホーム部・支店及びFC会社の最高責任者として、部下を指揮・監督し、業務執行を統括する。

廃棄物処理責任者	
職位	MH 建設事業部生産グループ長・施工グループ長、オナサート部技術室長・リフォーム営業室長、及びFC会社技術責任者もしくは廃棄物処理統括責任者が任命する者
権限	部下を指揮・監督し、廃棄物処理に関する業務を遂行する。

廃棄物処理担当者	
職位	三井ホーム部・支店・FC会社工事担当者・オナサート担当者・リフォーム担当者
権限	廃棄物処理責任者の命を受け、廃棄物処理に関する業務を遂行する。